

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：34410

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02428

研究課題名（和文）地域特性から読み解く進路多様校生徒のキャリア形成

研究課題名（英文）Career Development of Students at High Schools Based on Regional Characteristics

研究代表者

尾場 友和（OBA, TOMOKAZU）

大阪商業大学・公共学部・准教授

研究者番号：50781374

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：高校生のキャリア形成に対し、学校が提供する学科のカリキュラムだけが影響を与えるのではない。高校生は、彼らの生活の場である地元で見聞きする大人たちの経験をロールモデルとして捉え、そこから自らのキャリアを構成していく。このメカニズムは、学校による進路に対する水路づけ機能における強弱や地域の労働環境や産業情勢と関係している。こうした地域の社会的状況を加味した教育は、これまでの高校教育では等閑視される傾向にあり、本研究により新たな視座を提供できたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高校生のキャリア形成は、学校のカリキュラムと生徒の興味・関心に関連していると考えられる。確かに、カリキュラムは卒業後の進路を一定の方向に水路付ける。しかし、カリキュラムの中には水路付けが弱いものもある。また、生徒の興味関心も重要な要素であるが、高校生が見聞きする地域の大人たちの状況に左右されるため、地域の情勢が進路に対し影響を与えうる。そうした高校生のキャリア意識の形成に係るメカニズムは、これまでのキャリア教育では十分カバーしきれなかった領域である。本研究は、今後の学校現場における指導において、新たな視点を提示した。

研究成果の概要（英文）：For the career development of high school students, not only the curriculum of subjects provided by local high schools, but also the experiences of local adults that high school students see and hear as role models, and reconstruct their own careers from there. It can be pointed out the importance of career education and career guidance that is conscious of the relationship between regional characteristics and guidance within the school.

研究分野：教育社会学

キーワード：高校生 キャリア形成

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、産業構造や地理的制約などの地域特性が高校生のキャリア形成にどのように関連しているのか、高校生調査から彼らの認識を明らかにすることを目的とする。

これまで高校卒業後の進路は、学校の学力階層によるメリトクラシーで振り分けられ、その下位層に位置する高校においても学校から職業への「スムーズな移行」が理想的に行われてきた。こうした高校生と終身雇用を前提とする「日本型雇用」が結びつくことにより、彼らは地元産業の担い手としてキャリアを形成することができた。ところがバブル経済崩壊以降、経済競争のグローバル化や産業構造の変化、雇用の流動化が進行し、これまでのような進路形成は困難な状況になった。それにともない、ニートに代表される就労問題や派遣社員、フリーターといった働き方が注目を集め、それらを顕著に体現した東京の若者やそうした若者を多く輩出する高校の研究がされてきた。しかし、従来の高校生の進路研究は、現実の就労機会を左右する地域労働市場や地理的条件からくるライフスタイルなどの変数を軽視し、経済的・文化的な地域特性をふまえた分析を欠いてきたことに留意する必要がある。高校生の実際の進路選択は、本人の学力に加え、教育課程や将来展望に対する意識、日常の学校生活など、さまざまな要素が組み合わさっていると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、進路多様校の生徒が学校生活や職業を経験しながら形成していくキャリアに、産業構造や地理的制約などの地域特性がいかに関連しているのかを明らかにする。

若者の「学校から職業への移行」の困難が叫ばれて久しい。しかし、若者が抱える困難は地域の産業構造や地理的条件、それにとまなう生活スタイル等の地域特性によって異なる。

そこで本研究では、大都市と複数の地方都市に焦点を当て、移行上の課題を抱える可能性が高い高校生へのアンケートやインタビュー調査から、彼らのキャリア展望や進路形成上の課題を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では次のような調査・分析を行った。

- 1) 社会統計からみた地域特性の調査・分析
- 2) 質問紙調査による高校生の学校生活・キャリア意識調査分析(2019年5地域16校の高校3年生を対象)
- 3) 進路希望別キャリアに関する聞き取り調査

4. 研究成果

1) 社会統計からみた地域特性の調査

本調査では、調査対象地域のうち4県を対象に検討を行った(1県1校が小規模校であるため除外)。4県の特徴は表1のとおりである。

表1 調査対象地域の概要

A県	B県	C県	D県
地域経済ブロックの中心となる大都市がある。高度経済成長期以降、経済の地盤沈下が進み、懸念されている。	県庁所在地を中心とする大都市エリアと地方都市、過疎エリアがあり、移動アクセスにおいて地域によって差がある	地域ブロックの中心と都市を抱えるが、多くは地方都市と過疎エリアから構成されている。	地理的特性により、他地域との移動に制限があり、産業構造においても課題を抱えている。

ここでは、学校基本調査、就業構造基本調査や賃金構造基本統計調査、職業安定業務統計、労働力調査などの労働統計を使用し、分析を行った。ここでは次のことがわかった。

第1に、学校の設置状況は一樣ではなく地域により状況が異なる。特に、A県B県は普通科の比率や大学進学率が全国平均よりも高く、A県は私立校在籍率も高くなっていた。一方、C県D県では普通科の比率や私立校の在籍率が全国平均よりも低い。就職者の割合がやや高くなっていた。こうした地域による違いは、域内の経済所得や高等教育機関の設置状況など様々な要因がある(石黒ほか2012, 朴澤2015など)。すなわち、同じようなタイプの学校に通う高校生であっても、生徒の学力層や学校で経験する内容にも違いがありうるということが指摘できる。

第2に、地域の労働をめぐる状況は、従事する産業だけでなく従事者の教育歴も異なることである。全国平均で見れば、鉱業建設製造電気運輸と卸小売金融不動産学術、福祉医療複合サービス業に従事する就業者が全従業者の中で主な領域となっていた。教育歴別では、高校・旧制中学の教育歴は鉱業建設製造電気運輸の産業で、大学の教育歴は卸小売金融不動産学術の産業で多くみられ、教育歴によって従事する産業に違いがあった。だが、こうした教育歴によって従事する産

業の違いは地域によっても異なる。その差異は、A県B県では小さくなっていった。こうした地域によって異なる労働の状況は、それを看取り将来のキャリアを描く高校生の進路形成と関連していると考えられる。

2) 質問紙調査による高校生の学校生活・キャリア意識調査分析

本比較分析では、産業構造や地域の生活状況が異なる大都市と地方工業都市に焦点をあて、その中でも教育課程や学校規模が類似する2校(A校、B校)を分析対象とした。この2校は、後に示すように明瞭な地域の特性があるだけでなく、両校が地域の拠点校でないという点でも類似している。このことからA校B校を対象に分析を行った。その結果、次のことがわかった。

第1に、同じ学科、学力層の高校であっても、地域によって高校生のライフスタイルが異なる点である。大都市A校の生徒の認識では、通常の教育活動で行われる授業や資格取得の学習だけでなく、文化祭などの学校行事や部活動といった学習以外の活動においても、積極的に関わる度合いが低くなっていった。こうした学校に対する消極的な意識は、地方工業都市B校と異なる結果になった。一方、学校外の生活に繋がる消費文化においては、大都市A校の生徒の方が親和性の度合いが高い。それゆえ大都市の若者を対象とした消費文化は、学校により提供される高校生の生活を侵食していると考えられる。地域環境の社会的側面が高校生活の規定要因になりうるのである。

第2に、地域の違いはキャリア意識にも関連する点である。地方工業都市B校では、将来の進路に対する切迫感が強く、職業生活を安易に考えない傾向が見られた。この背景には大都市A校の地域と比較し、第二次産業に従事する大人が多く、仕事の種類が限定的である。そのため、高校生にとってキャリアの将来像が単純化され描きやすいことが考えられる。また、B校にはキャリア形成に関して人との繋がりを重視する生徒が多く、日常的に人との関係性が見えやすいと考えられる。こうした生活環境の違いは、将来のキャリアに対する認識に影響を与えていると思われる。

第3に、消費文化への傾倒とキャリア意識の関連の仕方は、地域によって異なる点である。すなわち、消費文化志向の生徒は、大都市A校では働く条件を重視する傾向があるのに対し、地方工業都市B校では何とかなるといった楽観的な意識と収入を重視するといった現実的な認識が、共存する傾向が見られた。こうした地域による認識の違いは、地域の地理学的な特性との関連が考えられ、今後さらなる究明が求められる。

こうした結果は、同じようなカリキュラム・学力層の生徒であっても、生活する地域の特性により学校生活、キャリアに影響を及ぼす可能性を明示しており、地域の特性を看過した高校生研究の限界を示唆している。特に、キャリア意識に関しては、地域の産業構造や労働市場との関係が深い。本稿は、そうした地域別に分析を試みようとする今後の研究に対し、布石を投じることができた。

3) 進路希望別キャリアに関する聞き取り調査

本調査では、地理的な制約を受けやすく、製造業に従事する人の割合が小さい地域の高校で、キャリア意識に関する聞き取り調査を行った。具体的には、進路希望ごとにグループ分けし、集団面接法により実施した。主な回答は以下のとおりである。

高校への志望理由では、「学力や通学の利便性により選択している」のように、入学時の難易度や学校への通い易さが学校を選択する上で重要な要素となっている。また、「資格が取れる」「就職をしたい」「資格やビジネスマナーを学びたい」「家族に専門科出身者がおり、専門教育を受けたい」など、科の特徴を理解して入学する生徒も少なくない。他には「自分の入りたい部活動の設備が整っている」のように、課外活動に魅力を感じて入学する生徒もいた。

専門教科の学習に関しては、多くの生徒が「最初は難しい」と回答している。しかし、「熱心な先生の指導によりわかるようになった」「補習があつて良かった」のように、教師らの手厚い指導により専門教科への適応が促され、最終的には自己の職業アイデンティティの形成に寄与しているケースが見られた。だが、全ての生徒が専門教科に適応しているわけではない。「資格の意味がわからない」「勉強をやってもわからない」といった消極的な回答があり、意欲が高まらず、むしろ苦手意識など負の印象を与え、専門外の領域へ関心を向ける生徒もいた(特に専門学校進学希望者)。

将来の職業や生活の場所については、「資格の学習を通じて、専門教科に関連した仕事を探す」のように専門科の特性を生かした進路を考える生徒が多くいたが、「将来は看護師になりたい」のように専門科が想定しない職業を希望する生徒もいた。また、「給料が多い都会で就職したい」「地元では商売が成立しない」といった地域のビジネス環境の課題により、地元を離れることを前提に進路を考える生徒も少なくなかった。さらに女子生徒においては、「将来の親の介護のため、どこかのタイミングで地元に戻りたい」のように、ジェンダーに関わる意見が少なからず見られた。

このように生徒のキャリア意識は、学校で学ぶ内容が影響を及ぼす一方で、生徒は生活してい

く中で経験する地域の大人たちのキャリア認識や地域の産業構造を解釈し、それに対応したキャリアを描いていた。これらは、個々の興味関心や適性に基づくこれまでの進路指導では想定してこなかったキャリア形成の様相だと言えるだろう。

参考文献

- 阿部真大,2013,『地方にこもる若者たち 都会と田舎の間に出現した新しい社会』朝日新聞出版。
- 赤木智弘,2007,『若者を見殺しにする国 私を戦争に向かわせるものは何か』双風舎。
- 荒川葉,2009,『「夢追い」型進路形成の功罪：高校改革の社会学』東信堂。
- 新谷周平,2002,「ストリートダンスからフリーターへ：進路選択のプロセスと下位文化の影響力」『教育社会学研究』第71集,pp.151-170.
- 藤田英典,1980,「進路選択のメカニズム」山村健・天野郁夫編『青年期の進路選択』有斐閣,pp.105-129.
- 樋田大二郎ほか編,2000,『高校生文化と進路形成の変容』学事出版。
- 樋田大二郎・樋田有一郎,2018,『人口減少社会と高校魅力化プロジェクト 地域人材育成の教育社会学』明石書店。
- 広井良典,2019,『人口減少社会のデザイン』東洋経済新聞社。
- 朴澤泰男,2015,『高等教育機会の地域格差 地方における高校生の大学進学行動』東信堂。
- 石黒格・李永俊・杉浦裕章・山口恵子,2012,『東京に出る若者たち 仕事・社会関係・地域間格差』ミネルヴァ書房。
- 苅谷剛彦,2001,『階層化日本と教育危機』有信堂。
- 轡田竜蔵,2017,『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房。
- 耳塚寛明,1980,「生徒文化の分化に関する研究」『教育社会学研究』35,pp.111-122.
- 三戸親子,2001,「総合学科における生徒の進路意識形成」『教育社会学研究』第69集,pp.103-123.
- 尾川満宏,2011,「地方の若者による労働世界の再構築：ローカルな社会状況の変容と労働経験の相互連関」『教育社会学研究』第88集,pp.251-271.
- 尾川満宏・尾場友和・山田浩之,2011,「現代高校生の生活と進路意識：ある地方商業高校を事例として」『教育学研究紀要』第57巻,pp.493-504.
- 岡部善平,1997,「『総合学科』高校生の科目選択過程に関する事例研究：選択制カリキュラムへの社会的アプローチ」『教育社会学研究』第61集,pp.143-162.
- 貞包英之,2015,『地方都市を考える 「消費社会」の先端から』花伝社。
- 田中葉,1999,「『総合選択制高校』科目選択制の変容過程に関する実証的研究：自由な科目選択の幻想」『教育社会学研究』第64集,pp.143-163.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 尾場友和	4. 巻 5
2. 論文標題 高校生のキャリア意識に関する大都市 / 地方工業都市の地域間比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪商業大学教職課程研究紀要	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾場 友和	4. 巻 6
2. 論文標題 進路・キャリア形成における地域特性の可能性 - 社会統計の基礎的な分析を中心に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪音楽大学教育研究論集	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾場 友和・尾川 満宏	4. 巻 65
2. 論文標題 地域特性に着目した高校生のキャリア意識分析 - 西日本のある地域における高校生調査からの報告 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 441-446
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 尾場友和
2. 発表標題 高校生の学校生活とキャリア展望における学校間比較
3. 学会等名 日本子ども社会学会第28回大会（オンライン開催）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾場友和
2. 発表標題 専門学校進学希望者の高校生活とキャリア意識
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会（オンライン開催）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾場 友和・尾川 満宏
2. 発表標題 地域特性に着目した高校生のキャリア意識分析 - 西日本のある地域における高校生調査からの報告 -
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomokazu Oba
2. 発表標題 Analyzing Vocational Teachers' Narratives about Career Guidance in Technical High Schools in Japan
3. 学会等名 2018 International Conference 'Teacher Education and Educational Research in the Mediterranean'（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomokazu Oba
2. 発表標題 The Modern Knowledge-Based Society and the Current Labor Market for the Graduates from the Secondary School in Japan
3. 学会等名 2019 Hawaii International Conference on Education（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	尾川 満宏 (OGAWA MITSUHIRO) (30723366)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------